

とこい洋治  
県政報告

## 笑顔大好き

E G A O

D A I S U K I

2004.4.18  
VOL.17  
とこい洋治後援会  
〒319-0205 西茨城郡岩間町神辺1745  
TEL0299 (45) 6818  
FAX0299 (45) 0818

## 地域の互助・自立の心を育てよう！



▲友部町まちづくり新春賀詞交歓会で、新年のあいさつを述べる常井洋治議員。友部町に関係する県事業の進み具合を、町民の皆さんにできるだけ詳しく説明したいとの思いを込めていた。(16年1月)

## 常井洋治議員の主張実現へ予算化、大きく前進!!

一般質問や委員会では、常井洋治議員が熱心に取り上げてきた施策が予算化され実現されます。皆さんと一緒に歩んだ成果です。橋本知事をはじめ執行部の皆さんのご理解と英断に感謝します。

## ◎県立中央病院へのPET(ペット)導入が具体化、MSW(医療ソーシャルワーカー)の増員も決定

- ・ 5mm程度の極早期のがんを発見できるCT付きPET(ペットと呼ぶ。「陽電子放射断層撮影装置」)の導入に向けて、検査施設の設計費800万円を計上。CT付きペットは、本県初の導入。1日に県民の約20人近くが、がんで死亡しています。その命を救いたいとの皆さんの思いがやっと実現します。
- ・ 16年度設計、17年度施設建設・装置導入、検査開始予定。
- ・ 常井議員は、平成14年第2回定例会(2002.6.13)の一般質問、15年第3回定例会(2003.9.22)の予算特別委員会質問で、PETの早期導入を求めてきました。  
また、中央病院に退院患者の転院先などの相談に応じる医療ソーシャルワーカー(MSW)が1名増員(合計2名)されました。民間病院への配置も、引き続き求めていきます。

## ◎友部SAでETC専用インターチェンジ社会実験実施へ

- ・ 常磐道友部サービスエリアから乗り降りできるETC専用IC社会実験及び恒久化に向けて、取り付け道路の設計等の調査費2,000万円を計上。県は16年度、国へ社会実験の採択を求めていきます。
- ・ 常井議員は、平成11年第3回定例会(1999.9.10)の一般質問、14年第2回定例会(2002.6.13)の一般質問、15年第3回定例会(2003.9.22)の予算特別委員会で友部SAへのIC設置を求めてきました。



# 一緒に創ろう！ 平成16年第1回定例県議会 を終えて

## ふるさと西茨城郡 友部町 岩間町 岩瀬町の新时代

平成16年第1回茨城県議会定例会は、2月25日から3月22日までの27日間開かれ、平成16年度予算、15年度補正予算、14年度決算の認定及び条例など101議案を議決して閉会しました。常井洋治議員は、予算特別委員会、土木委員会で、活発な質疑と審議を行いました。

### 平成16年度一般会計当初予算案を可決

# 1兆403億9,800万円

(15年度当初比0.8%の微減)  
(3年連続のマイナス予算)

### 予算の特徴

#### 〈三位(さんみ)一体改革の痛み先行〉

地方交付税や国庫補助金が大幅に削減され、一方で税源の移譲が進まない片手落ちの改革の痛手を受けた。15年度決算見込みとの比で、地方交付税は361億円、臨時財政対策債は180億円、それぞれ減額された中での厳しい予算編成となった。

#### 〈財源不足額への対応〉

前記の影響で、財源不足額は、当初の見込み700億円から800億円に拡大。引き続き職員給与のカットなど人件費の削減(70億円)、財政健全化債の発行(234億円)、基金の取り崩し(317億円)等でやっと対応する。議員、知事の報酬カットも継続。

#### 〈進む財政硬直化〉

人件費や公債費などの義務的経費は、歳出全体の60.7%を占める。

#### 〈県税収入増加〉

対前年度当初比8.8%、245億円増加で3,026億円を計上。個人県民税は、給与所得の減少によりやや落ち込むが、一部の企業収益の回復等により法人2税(法人事業税・法人県民税)は、31.8%、224億円の増加で928億円を見込む。

#### 〈公共事業費〉

国庫補助公共事業費は、1,409億円(対前年度当初比3.8%の減)、県単公共事業費は、291億円(同、4.9%減)を計上。

#### 〈県債発行額＝県の借金〉

1,499億円(対前年度当初比16.4%の大幅減。)を計上。  
16年度末県債残高見込みは、1兆6,619億円。

#### 〈基金取り崩し〉

一般財源基金から317億円を取り崩し、歳入に繰り入れる。  
16年度末基金残高見込みは、約198億円。(ピークは、3年度の残高1,763億円。)

### 地元関係予算トピックス

#### 岩瀬町などの石材活性化事業 (予算額11,167千円)

岩瀬町を含む4市町村の筑波西部地域の石材産業の活性化を図る。中国製品に対する競争優位の獲得(品質保証制度によるブランド化)をはじめ、ストーンフェスティバルの開催、石材スラッジ(研磨くずの粉)の再利用などを行う。若手の石材業者等を支援していく。



若手の石材業者が、「いしやのトマト協同組合」(長谷川正代表)を設立して、石材スラッジを培土として、利用した高糖度トマト水耕栽培を行っている。県農業総合センター、県農業指導所の技術指導を受けた。  
レ스토랑などに販路を開拓して意欲的に取り組んでいる。(16年4月)

### ☆知っておきたい情報☆

1. NHK県域デジタル放送が10月から開始。県内ニュースが増加 現在10分→2時間40分/日
2. パスポートの日曜日受取りができます。
3. パソコンで、大字単位の犯罪マップが分かります。(茨城県警察本部ホームページをご覧ください。)
4. 公衆無線LANが県庁舎、県立図書館、水戸合同庁舎等で無料で接続できます。
5. 中小企業向けの、県の長期制度融資が全て借換えできます。(毎月の返済負担の軽減)
6. 「いばらき就職支援センター」で雇用相談や職業紹介等を一貫して行います。TEL 029-300-1916

### 一県議会の論戦から一

#### ●県西総合病院(岩瀬町)と下館市民病院の統合について

筑西広域事務組合(岩瀬町など8市町村)管内にある2つの病院を統合して、優れた医療体制を整備すべきだとの一般質問がありました。(下館市選出 新井昇議員)

橋本知事は「地元の市町村の間で、統合に向けて意思統一できるのであれば、その実現に向けて最大限の支援を行ってまいります。」と答弁しました。

▶県西総合病院は、岩瀬町など5町村の事務組合で運営する。病床数303床、医師34人、看護師154人。岩瀬町民の安心のよりどころとなっているが、昭和43年建築のため、老朽化が進み、敷地も狭い。常井議員も、皆さんと話し合いながら、医療の充実に努力していきます。



## 予算特別委員会 質疑要旨

H.16.3.18

### 1. いばらき総合流通センター予定地（友部町）の火災で、常井委員が緊急質問。防火・防犯対策の徹底と早期着工を求める！

**常井委員** 3月11日に同予定地で、ちょうど4年前に続いて2度目の火災が発生してしまいました。折からの強風の中で、消防士は、藪の中に入らないうちに放水して消火に当たっていた。藪のままにしておくことに、今後の再発への地元の不安は、非常に大きい。

県では、予算がないとか、管理を強化してきたとか、企業が張り付かないので着工が遅れるとか言うのだけれど、県の管理責任は、結果責任として問われる。橋本知事はじめ県の幹部の皆さんは自分ごととして受け止め、現地の県民の目線で考えていくべきだ。

また、灌木の茂る荒地のままにしておかずに、粗造成をしてきちんとした売り物を作るべきだ。そして、友部SAへのETC専用インターチェンジ設置に向けたインパクトを生かして早く、分譲販売を進めるべきだ。

ここは、小・中学生の通学道路にもなっていて非常に危険だ。火災も、このままではまた起きるかも知れない。

橋本知事に、今後の防火・防犯対策の徹底と粗造成などの早期着工を強く求めたい。(答弁は求めず、要請のみとした。その後、県では、町と協議して対応策を検討している。)



▲流通センターの火災で、職場からかけつけて活動する消防団員の皆さん。常井委員は、今後も、消防団の充実に努めていきます。

### 2. 岩間ICからの百里飛行場へのアクセス道路は、開港前に全線新設道路として整備すべきだ！

**常井委員** 百里空港の成功のためには、岩間ICからのアクセス道路が極めて重要だ。私の一般質問に対する土木部長答弁（平成12年第3回定例会）で、6.7kmの新設道路で整備するはずだったが、答弁と異なる整備方針になっていると聞く。一部現道を使うような中途半端な道路ではなく、開港が2、3年遅れることをむしろ奇貨として、開港前に全線新設の直結道路として整備をすべきだ。

**坂入土木部長** 岩間ICから国道6号までの6.7kmを県道上吉影岩間線のバイパスとして、12年度から重点的に整備を進めている。しかし、15年度の道路事業費は、12年度に比べて18%縮減していることから、当面4.1kmを優先区間として進め、残りは、県道や美野里町道の現道を利用することもやむをえないと考えている。

しかしながら、常井委員の指摘の全線整備については、百里飛行場へのアクセスの上から大変重要と考えており、引き続き最大限の努力をしまっている。

### 3. 畜産試験場跡地の利活用で住民の意見を聞く場の設置を提案

常井委員は、友部町などの住民から、跡地の使い方について色いろなアイデアが出されているので、それらを十分に反映させていくために、意見を聞く場の設置を求めた。

### 4. 地域コミュニティの核である消防団の活動の充実を図ろう

**常井委員** 今回の予算で新規事業として「ご近所の底力再生事業」を掲げ、自警団等の組織化を目指しているが、地域コミュニティの再生のためには、その核となって既に多面に亘って活躍している消防団組織の充実こそ重要だ。

団員が減少しているので、県が、本気で取り組むなら、消防団へ県職員や教員を義務的に入団させることを考えられないか。

**橋本知事** 今後は、職員に対して直接働きかけを行い、職員が消防団員として活動しやすくなるように特別休暇の検討を進めるなど、積極的に取り組んでまいりたい。(消防団に入団している県職員数：H.14.4.1現在 218人)

### 5. 安全・安心な地域コミュニティのために地域警察力の強化を図るべきだ

**常井委員** (前出の) ご近所の底力再生事業の治安面の活動では、なんと言っても警察の力強い後ろ盾が必要だ。交番や、駐在所は、地域に根づいて信頼されている。しかし、駐在所(264カ所)へのパトカー配置は、4分の1にすぎない。全所に配置していくべきだ。

警察官は、13～16年度の4年間で505人増員された。新人教育も含めて、犯罪多発地域を限定して、集中的な巡回連絡(戸別訪問)を実施してはどうか。

**中林警察本部長** 交番・駐在所の機動力強化のためにパトカーの全所配置が是非とも必要なので、国・県に要望を続けてまいりたい。

犯罪多発地域を重点に、すべての地域警察官による巡回連絡を強化していく。(参考：16年度警察官定員は4,394人)

### 6. 市町村合併特例債の交付税措置は、本当に大丈夫なのか

**常井委員** 市町村合併は、合併特例債をアメ(餌)として進められているが、将来の地方交付税措置(償還費の7割を補てん)の実行は大丈夫なのか。10年、20年先まで国の保証を信じられるのか。地方全体が身動きがつかなくなることはないのか。あまり頼りすぎると、警鐘を発しながらやっていく部分があった方がいいのではないのか。

**橋本知事** この交付税措置については、法律に定められているわけで、頭から信用しないわけにはいかないし、当然に実現されていくものと考えている。

# 土木委員会 (H.16.3.10)

## 友部サービスエリアへのETC専用 インターチェンジの実現を求める

### ●ETC専用インターチェンジ(IC) 社会実験推進費を計上 (予算2,000万円)

国の社会実験に友部サービスエリアを候補地とするため、交通量や取り付け道路の設計調査費を県単独で予算化しました。常井委員が、友部町民や地域振興のために、友部SAから直接乗り入れできるICの設置をずっと主張してきたことがやっと実現する方向になりました。

同議員と土木部高速道路対策室の住谷勉夫室長との質疑の要旨は、次のとおりです。

- ① 国の採択は、全国で30カ所程度になるだろう。本県では、友部を積極的に要望していく。実験後の恒久設置も求めていく。
- ② 整備時期は、6月頃に全体構想が示されてから分かる。
- ③ ゲート数は、上り下り線とも出口・入口1カ所ずつになる。(出口・入口1セットで2.5億円かかる。)
- ④ 建設費は、試算では、約10億円ぐらいと見込まれる。通常はICの新設には、約40~50億円かかると言われている。地元の負担は、現時点では不明である。

※また、同委員は、取り付け道路の設計にあたっては、将来の高速バス停の設置や、IC近接地への地元農産物売り場の設置などを考慮するべきだと述べました。

### ●中古住宅などの情報ネットワークを検討へ

常井議員は、住宅行政について次の主張をしました。

- ① 不況の影響か、県営住宅の入居待機者はこの6年間で6倍に増え、現在約2,000人にも達している。県の新規事業の「借り上げ方式」を、もっとスピードをあげて進めて供給すべきだ。民間貸家の空室も借り上げの対象に検討すべきだ。
- ② 一方、県営住宅は、民間と競合して圧迫している面もある。どんどん増設するばかりでなく、持ち家の推奨を進めたり、入居基準を見直し、機会の公平化を図る必要もある。
- ③ また住宅団地では、高齢化に伴う空き家が目立ち、地域コミュニティの維持が心配だ。県が中古住宅市場の開拓をして、中古住宅への持ち家の誘導も検討すべきだ。

これらの主張に対し、金子庄一郎住宅課長は、公営住宅と民間との競合防止方策や、中古の持ち家、貸家などの住宅に関する情報ネットワークを検討すると答弁しました。

◀ETCインターチェンジが設置される予定の常磐道友部SA



▲友部町の茨城福祉工場では、毎年、自治会(目黒隆寿会長さん)主催で、地元関係者との地域交流会を実施している。今回は友部高校の女子生徒がボランティアで手伝った。同工場では、67人の身体障害者が元気で働き、好業績を上げている。(16年2月)



▲岩瀬町久原・飯淵婦人防火クラブの皆さんは、毎年出初式に出動している。厳寒の中での機敏な行動に、自分たちの地域を守る熱い思いが伝わってくる。(16年1月)



▲◀岩間町土師(はじ)地区で、水田20haの用水路約1,300mの敷設替えを実施した。県単土地改良事業で、計画事業費は4,155万円。地区の皆さんと共に推進した常井議員は、通水式の後、役員の方々と喜びを分かち合った。(16年3月)



▲▶総合流通センターの火災発生で常井議員は、いち早く現場に駆けつけて、消防関係者の労をねぎらった。現地本部で、永井一郎衛門友部町消防団長さんなどから状況を聞いた。(16年3月)



◀県議会開会を控えて、常井議員は、同僚議員らと共に、県の担当課長と予算、議案についての事前の勉強会を実施した。活発な意見交換を通して、地元の要望を確実に伝えている。(16年2月)

## 燃える郷土愛。全力投球!!

—地域の互助・自立精神の復活を— —環境商工委員会、情報委員会で活躍—

皆様には、常日頃から私の県議会活動に対し、熱いご声援を賜り厚くお礼申し上げます。

予算特別委員会において、国の「三位一体改革」が地方を切り捨てている現状の評価や今後の対応、そして県民にわかりやすい説明の仕方について、橋本知事と論戦を交わしました。(詳細は、ホームページからのリンクで議事録をご覧ください。)

そして、今後の行政のあり方についても、これまでのように何でも請け負って「船をこぐ」ことから、住民や企業やNPOなどと協働しながら「舵をとる」ことへの役割の変化を「行政革命」として目指すことで、知事と認識の一致を見ました。地域においても、助け合いと自立の心をはぐくみ、昔の「道普請(みちぶしん)」のような文化を継承していくことが望まれます。

私はこの度、常任委員会は「環境商工委員会」に所属することになりました。生活環境部、商工労働部の重要な部を所管します。

私は、皆様との「信頼の絆」を大切に、今後ともご用聞きに徹してまいります。引き続き、ご支援をお願いいたします。

茨城県議会議員 常井洋治



HPアドレス●<http://business2.plala.or.jp/tokoiy>  
「県政を語ろう」コーナーをぜひご覧ください。